

# 議会だより



中学1年生の職業体験（10月11日、道の駅しかべ間歇泉公園）



## 第71号の掲載内容

- |                         |                      |
|-------------------------|----------------------|
| ○平成28年度決算の概要…… 2 P～ 3 P | ○会議出席状況…………… 9 P     |
| ○第3回定例会の概要……… 4 P～ 5 P  | ○行政視察報告…………… 10P～14P |
| ○議員全員協議会の概要……… 5 P      | ○委員会の活動…………… 14P～15P |
| ○一般質問…………… 6 P～ 9 P     | ○議会の行事…………… 16P      |

発行／鹿部町議会 編集／鹿部町議会運営委員会

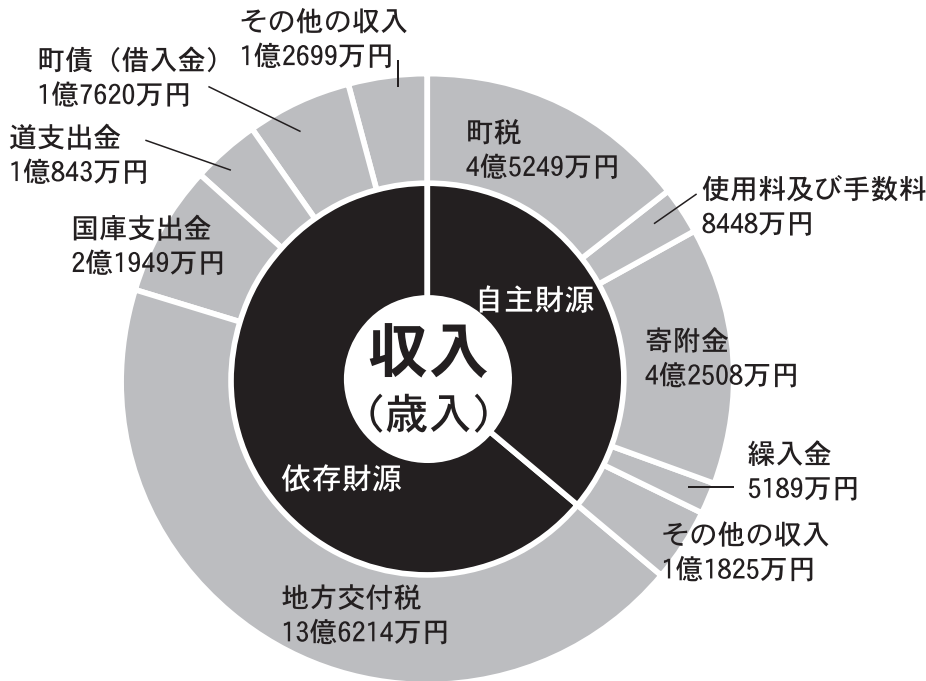
委員長 浦 梅吉、副委員長 千葉 光義  
委員 船橋 敦子、委員 高橋 茂夫

〒041-1498 北海道茅部郡鹿部町字宮浜299  
TEL 01372-7-5296（直通） FAX 01372-7-3086

# 度各会計決算

## すべての会計の

## 決算を認定



※金額は1万円未満四捨五入

一般会計 収入（歳入）合計  
31億2544万円

一般会計の歳入で町税の総額は前年度対比2%増の4億5,249万2,427円。うち町民税は前年度対比2.2%増の1億7,443万3,992円となりました。寄附金の収入額は、前年度対比104.7%増の4億2,507万6千円となりました。

一般会計の歳出では、住民福祉関係として、福祉灯油等助成事業、地域活動支援センター「ほっば」活動、高齢者福祉事業、各種健診、子育て支援事業、防犯灯LED化調査事業、ごみ処理事業、公民館改修工事、道路改良舗装工事、河川維持、町営住宅管理、防災行政無線屋外拡声器の増設など、産業関係では、ふるさと納税事業、水産資源保護事業及び放流事業、漁港整備、町有林の整備、観光事業補助、商工業等活性化支援対策事業、公園管理などを実施しました。

平成28年度決算は、決算審査特別委員会を設置し、9月5日から2日間にわたり審議した結果、原案のとおり認定しました。

### 平成28年度各会計収支（歳入・歳出）決算額

会計区分	一般会計	特別会計				水道事業会計	
		国民健康保険	介護保険（保険）	介護保険（サービス）	後期高齢者医療	収益的収支	資本的収支
歳入	31億2544万円	10億7175万円	3億2280万円	86万円	5066万円	収入 1億1172万円	収入 0円
歳出	29億9936万円	10億4311万円	3億1361万円	86万円	5059万円	支出 8045万円	支出 8752万円

# 平成28年

## 貯金（基金）残高の推移（一般会計）

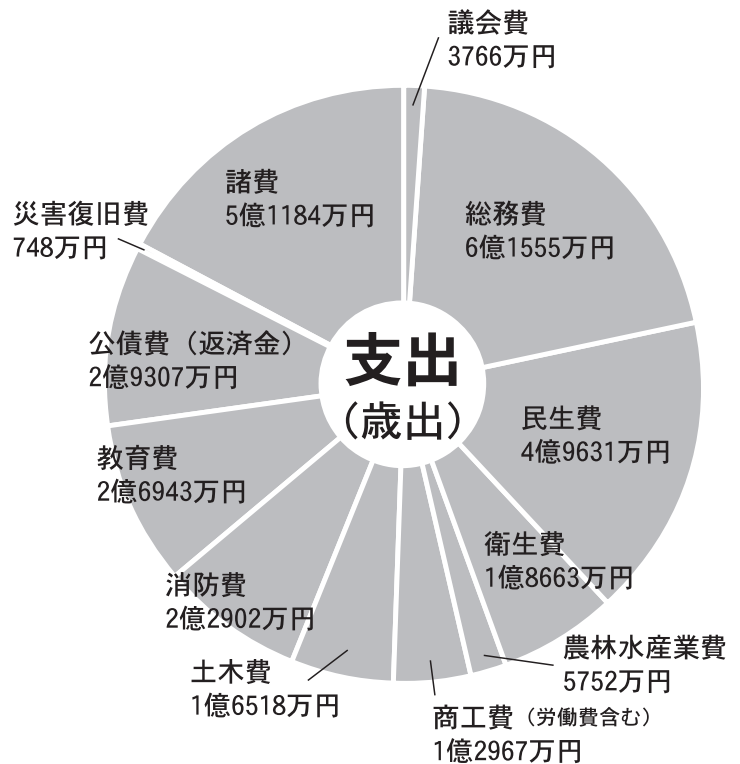


公共施設整備基金及び地域福祉基金の増により、平成28年度は7,911万円の増となっています。

## 借入金（町債）残高の推移（一般会計）



平成25年度からは、ひまわり団地と一般廃棄物埋立処分場の建設により借入れを行ったため増となり、平成27年度は、しかべ間歇泉公園周辺整備事業、平成28年度は、公民館改修事業に係る借入も行っています。



一般会計 支出（歳出）合計  
29億9936万円

## 一般会計

町民1人当たりの決算額

**742,230円**

平成29年3月31日現在人口  
4,041人

### 総務費

税務、情報対策、地域活動など



152,325円

### 民生費

住民の福祉など



122,819円

### 衛生費

ごみ処理や病気予防のため



46,183円

### 商工費

商工業・観光振興など



32,064円

### 土木費

道路・公営住宅の整備など



40,874円

### 消防費

消防など



56,674円

### 教育費

学校・公民館の整備など



66,673円

### 公債費

借入金返済など



72,525円

### 諸費

職員の給与など



126,662円

### 農林水産業費他

農林水産業費、議会費、労働費、災害復旧費など



25,431円

# ～平成29年第3回定例会～

平成29年第3回定例会は、9月5日に招集され会期を4日間と決め、議員行政視察報告及び町長行政報告のあと、条例2件、補正予算5件、認定5件、報告2件、同意3件、意見書案1件、その他議案4件の審議を行い、全て原案のとおり可決、認定及び同意され会期を2日残して閉会しました。

## 承認

### 長期休業中の預かり 保育の検討

◆平成29年度鹿部町一般会計補正予算専決処分報告の承認について

地方自治法の規定により、6月29日付けで専決処分したもので、歳入歳出それぞれ56万5千円を追加し、予算総額を28億5308万4千円としました。

内容は、しかべ幼稚園の夏休みなどの長期休業中に係る預かり保育の検討・検証を行うための事業費用の追加です。

## 条例

### 中小企業振興への取 り組み

◆鹿部町中小企業振興基本条例の制定について

中小企業の振興に関し、基本となる事項を定め、基盤の強化及び健全な発展を

促進し、地域経済の発展及び町民生活の向上に寄与することを目的に制定するものです。

◆鹿部町特別職の職員で非常勤のものの報酬及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例の制定について

鹿部町中小企業振興基本条例の制定に伴い設置される鹿部町中小企業振興会議の委員を追加するものです。

## 補正予算

◆平成29年度鹿部町一般会計補正予算について

歳入歳出それぞれ1億661万5千円を追加し、予算総額を29億5969万9千円としました。

内容は、鹿部漁港上架船台施設に係る補助金の追加が主なものです。

◆平成29年度鹿部町国民健康保険事業勘定特別会計補正予算について

歳入歳出それぞれ174万1千円を追加し、予算総額を10億731万6千円と

しました。  
内容は前年度退職者療養給付費等交付金返還金に係る補正です。

◆平成29年度鹿部町介護保険事業特別会計補正予算について

歳入歳出それぞれ268万2千円を追加し、予算総額3億9898万7千円としました。

内容は、前年度の介護給付費国庫負担金及び地域支援事業における国庫補助金及び道補助金の償還金に係る補正です

◆平成29年度鹿部町水道事業会計補正予算について

資本的収入に1500万円を追加し、総額1500万1千円としました。

内容は、大和送水ポンプ場非常用発電機更新工事に係る企業債の借入れです。

## その他

### 職員事務用パソコン更新

◆財産の取得について  
内容は、耐用年数の経過に伴う事務用パソコンの更新で、今年度と平成30年度の2力年で全職員の事務用パソコン45台を更新するものです。

【取得金額】  
1014万1200円

【取得の相手方】  
株式会社近藤商会

◆北海道市町村総合事務組合規約の変更について  
北海道町村議会議員公務災害補償等組合規約の変更について  
北海道市町村職員退職手当組合規約の変更について

本町が加入している各組合それぞれの規約を改正することに於いて、地方自治法の規定により協議するものです。

## 同意（人事）

◆鹿部町固定資産評価審査委員会委員の選任について  
平成29年9月16日をもって任期満了となる小笠原功氏、川村光雄氏の再任、同日で退任される吉紀郎氏の後任となる櫻田憲史氏の3名について、満場一致で選任することで同意されました。

○小笠原功氏 61歳  
字本別314番地1  
○川村光雄氏 72歳  
字宮浜338番地18  
○櫻田憲史氏 39歳  
字宮浜266番地1



## 意見書の提出

◆次意見書を可決し、関係省庁等へ提出しました。  
林業・木材産業の成長産業化に向けた施策の充実・強化を求める意見書

【提出先】  
衆議院議長、参議院議長、内閣総理大臣、財務大臣、総務大臣、文部科学大臣、農林水産大臣、経済産業大臣、国土交通大臣、環境大臣、復興大臣

## 議会を傍聴してみませんか

次回の定例会は、12月上旬に開催される予定です。

～傍聴手続きは簡単です～

## 議員全員協議会

◇平成29年第3回議員全員協議会

・開催月日  
平成29年8月28日

・内容  
しかべ間歇泉公園第2期周辺整備事業の進め方について  
事業手法や管理運営方法等の調査業務の実施について協議をしました。

◆中小企業等振興基本条例の制定について

町、事業者、商工会、市民の役割を明らかにし、中小企業の振興について連携を強化することで、地域経済の発展や活性化に取り組むことを目的にした理念条例の制定について協議しました。

た不足額の半分である2868万円の支援要望があり、支援することについて協議しました。

◇平成29年第4回議員全員協議会

・開催月日  
平成29年9月26日

・内容  
地熱発電開発に伴う同意について  
SBエナジー株式会社との地熱発電事業に対する協力及び各調査や掘削等の同意について協議しました。

◆医師公宅の用途廃止及び売却について

医師確保のため、一括購入した前しかべ内科診療所に係る土地建物等のうち、使用されていない医師公宅の売却について協議しました。



◆漁港漁村活性化対策事業補助金について  
鹿部漁業協同組合から鹿部漁港の上架船台施設の改修について、総事業費1億2636万円のうちの補助6900万円を差し引い



佐藤頼幸 議員

鹿部漁港について

水産物の信頼性、付加価値をより高め、安全安心の水産物を消費者に届けるため、衛生管理型の漁港に整備いたしました。次の点についてお伺いします。

① 完成前と完成後では、どのように変わったのか。

② 整備に係る総事業費、そして町の持ち出し分はいくらか。

③ 衛生管理型のメリットは何か。

④ 排水など統一的な利用がされていないと思うが問題はないのか。

⑤ 今年度、市場に設置予定のウルトラファインバブル発生装置は、どのような効果があるのか。

⑥ 鹿部漁港の今後の方向性をどのように考えているのか。

■地域の特性に合った対策で水産物の信頼性、付加価値をより高め、安全で衛生的な漁港を目指す。

(答弁者)  
盛田昌彦 町長

議員ご指摘の衛生管理型漁港整備事業につきまして、盤石な漁業体制づくり、顔の見える漁業の構築等基幹産業の推進において、根幹をなす事業でありまして、また、漁獲から販売まで、町全体で取り組むべき、最重要施策の一つであると考えてございます。

まず、1点目の衛生管理型漁港整備後の状況についてでございますが、本漁港は、生産から流通まで一貫した衛生管理の実現を目標に衛生拠点漁港として、平成16年度から、温度管理や異物混入防止のための天蓋

施設、水域の環境保全のための取排水処理施設や海水交換施設などのハード面を整備してまいりました。しかしながら、一番重要なソフト面でありまして、マニュアルに沿った、利用者側の衛生管理に対する意識向上や手洗いの徹底などが、なかなか浸透しておらず、鹿部漁港衛生管理計画に基づきました、ハード面ソフト面一体となった、安心安全な漁港にはまだまだ、ほど遠い状況と認識しております。

2点目の整備費についてでございますが、総事業費は約38億円となりまして、内、地元負担が約4億8千万円となっております。

3点目、衛生管理型のメリットですが、最大のメリットは、当町の水産物の取り扱い方をしっかりと外部に示せることにより、近隣市町村など当該エリアにおきまして、なにか問題が発生した場合にきちんと安全性を証明できるところにあると考えております。

4点目、排水施設の利用についてでございますが、議員ご指摘のとおり、当初

の計画どおりには利用できず、問題があると認識しておりますので、今後とも適正な利用に向け、創意工夫を促しながら指導してまいりたいと考えております。

5点目のウルトラファインバブル発生装置の効果につきましては、よりきめ細かな酸素を水中に送り込むことにより、水産物の鮮度が長く維持できる効果が期待できると伺っております。

6点目、鹿部漁港の今後の方向性についてでございますが、鹿部漁港衛生管理計画に基づき、漁業関係者の意識の向上、漁獲物の取り扱い方などソフト面の対策と施設整備などハード面の対策を地域の特性に合った形で推し進め、水産物の信頼性、付加価値をより高め、安全で衛生的な漁港を目指してまいりたいと考えております。



■再質問、再々質問の要約  
(質問者)  
佐藤 頼幸 議員

町長の説明する重要なソフト面、ハード面とマニュアル、安心安全な漁港への取り組み、問題発生時の具体的な安全性の証明について説明してください。

衛生管理型のために総事業費38億円、地元負担金4億8千万が使われていますが、付加価値が果たしたように感じません。今後の漁協への指導について説明してください。

全てのホタテ業者が取排水施設を使用しても機能するでしょうか。

海に排水している業者も見られるので、全業者が集中的に排水施設に流せる方法があればよいと思えますが、考えを伺います。

ウルトラファインバブルについて、それほど効果がないと聞いています。効果があると判断した基準、設置時期と使用方法についてお聞きします。

鹿部漁港衛生管理型計画の内容や、安全で衛生的な

漁港をどのように実現するか、衛生管理型漁港の完成が遅れた理由を説明してください。

■再答弁、再々答弁の要約

(答弁者)

盛田 昌彦 町長

ソフトは、漁業者の意識向上や手洗いの徹底など、ハードは、施設整備で天蓋施設や海水交換施設、取排水施設などをハードとしています。

マニュアルは、作業工程やチェック体制の指針を示したものです。

安心安全な漁港への取り組みについては、平成16年度から指導方法を漁協と話し合いをしていましたが、衛生管理が浸透していないのが実情ですので、協議等として講習会等何か施策を打ちたいと思っています。

付加価値については食中毒事件で地域が壊滅状態になった問題を受け、全国的な衛生管理の問題に発展した時に、天蓋施設や取排水施設が当たり前の漁港になる前に整備しようと進めま

その際に、マニュアルやチェック表を管理保存し、問題が起きた時には、それを提示する保険的なものですが、地域全体がストップし、壊滅的な状態になることを考えれば、それほど膨大な投資ではないと理解しています。

中央埠頭の施設は、船が航行する場所で危険なため、当初の計画どおりいかず、今は施設外で作業している状況で、これを漁協と創意工夫をして施設内で作業していただくよう指導していただきたいと考えています。取排水の水も間に合わないため、創意工夫しながら限られたハード面を利用して付加価値を高めていかなければならないと認識しています。

ウルトラファインバブルについては、実証して、効果が出る魚種など、付加価値を高めるための検証の事業です。効果が出ることを期待しながらこれから拡大するかどうか決めていくという考えです。

衛生管理型の計画は平成16年度から何度か説明していますが、課題を把握し、

解決するためにハード面、ソフト面では何をすべきか、目指すべき漁港についてまとめています。

安全で衛生的な漁港というのは、ハード面で物理的に安全にする。そしてソフト面で意識向上して安全に取り扱う。それが地域全体に広がりを見せた時に初めて付加価値がつくと思います。

完成が遅れた理由は、排水の関係など、当初の計画どおりにいかず、鹿部の実情に合った改修を行ったというのが遅れた理由です。

付加価値の高め方は、衛生拠点漁港が、ハードとソフト面、意識向上が一体となった場合に、道の駅で進めている顔の見える漁業や観光が一体となって鹿部のブランドができ上がると思っています。

加えて温泉、リゾートが鹿部ブランドになった時に初めて鹿部のものは高くても買う、鹿部に行くんだというの魅力でありまして、目指している日本一魅力ある漁師町、日本一行つてみたい住んでみたい漁師町にその上でやっとなどり着く

と思っっています。それが私の今考えている付加価値向上のためのビジョンです。

■再答弁、再々答弁の要約

(答弁者)

加藤 水産経済課長

ウルトラファインバブルは、漁協で夏場に設置する予定でしたが、電源が不足しているため、秋口から電源設備工事とあわせて発注すると聞いています。

取水施設については、完成してから不具合が生じ、

北海道が何度も修繕して、今年度から運用が可能になったところで、今後検証しながら、使用方法について漁協と打合せをして進めていきます。

漁港が完成した時に、漁協とホタテ業者が集まり、船の配置を協議して場所を決め、それを守って運用していると聞いています。実際守られていなければ、町から漁協、漁港管理委員会に、協議、指導していきたいと思います。



鹿部漁港取排水施設



高橋茂夫 議員

人口減少対策等について

人口減少に歯止めがかからない状況が続いており、危惧しているところでございます。

初めに、この3年間の人口減の実態等について伺います。

若い世代と高齢者の転出人口はそれぞれ何人でしょうか。

次に転出抑制策について伺います。

町の強み温泉熱利用等を活用した企業誘致等の取り組み状況、またちよつと暮らし事業の実績と今後の取り組みについて伺います。

■地熱発電やちよつと暮らしなど民間活力・町・住民と連携を強化していく。

(答弁者)  
盛田 昌彦 町長

議員ご指摘のとおり、人口減少、少子高齢は、大変

重要な政策課題でございますので、本町では平成27年度に鹿部町まち・ひと・しごと創生総合戦略を策定し、現在、各種事業に取り組んでいるところでございます。なお、議員ご質問は、①3年間の転出人口、②町の強みを活用した企業誘致等の取組状況、③ちよつと暮らし事業の実績及び今後の取組の3点でございます。始めに3年間の転出人口でございますが、年度に關しましては、人数が確定しております直近の平成26年27年28年3年間とさせていただきますました。また、世代に關しましては、64才以下を若い世代、65歳以上を高齢者とさせていただきますました。平成26年度に転出された方は225名で、若い世代が193名、高齢者が32名となっております。平成

27年度に転出された方は174名で、若い世代が141名、高齢者が33名、平成28年度に転出された方は156名で、若い世代が130名、高齢者が26名となっております。続きまして、町の強みを活用した企業誘致等の取組状況でございますが、現在、町では次世代エネルギー等を活用した新産業構築の実現に向け、その内容や今後の展開等を研究することを目的に、特別職及び管理職で構成した次世代エネルギー研究会を立ち上げ、8月17日に第1回目の研究会を開催したところでございます。

また、地熱に關しましては今後の町の重要政策と考えていることから、議員皆様へご案内申し上げご出席を賜ったところではございますが、改めて研究会の内容を簡略にご説明させていただきます。第1回目の研究会では、地熱発電をテーマとし、本町で地熱を利用した発電事業を計画されているSBEナジー株式会社様ソフトバンクグループで孫正義氏が社長の会社を講師に招き、当該事業がもたらす地域貢献や今後の事業展開の提案などについて、お話しをいただいたところでございます。地域貢献といたしましては、環境学習教育の実施、物産展の開催、自治活動への協賛などが挙げられてございます。

また、地元利益といたしましては、固定資産税や建設や補修における地元参画保守運用における地元参画などがあげられており、雇用機会の創出や観光資源等の期待もあり、町の強みであります温泉熱を活用した企業誘致として、議員皆様と情報を共有をしながら、前向きに取り組んでまいりたいと考えているところでございます。次に、ちよつと暮らし事業の実績及び今後の取組でございますが、ちよつと暮らし事業に關しましては、鹿部町への移住を目的に町内で住居を探し、仕事を探し、暮らしを体験する等の活動に係る滞在費の一部を助成し、もって本町への移住の希望者及び体験者の増加を図ることを目的に平成27年4月から町内民間宿泊施設と連携し、事業を始めたところでございます。また、平成28年7月から、大和ハウス工業において、リゾート内物件を活用したお試し住宅が開始され、官民連携によりお試し住宅の利用に対しても当該制度の利用を可能としたところでございます。



お試し住宅



る所存でございます。

■再質問の要約

(質問者)

高橋 茂 夫 議員

3年間で転出された高齢者91名のうち鹿部町での生活維持が困難で町を去った人は何人でしょうか。

その対策としてサービスピキ高齢者向け住宅等の誘致が効果的であり、また全国から移住者を増やす営業力にもなると思います。

また、大和ハウス工業との包括連携協定を最大限に生かす目玉の事業にもなりうるかと考えています。

雇用機会の創出にもつながる施策として確信していますが、町の取り組みの考え方を伺います。

■再答弁の要約

(答弁者)

盛田 昌彦 町長

サービスピキ付き高齢者向け住宅に関しては、難しい案件ではありますが、官民連携で新たな希望の道が開けるのではないかと期待しています。

雇用対策でも福祉施設ができて、働く方々を全国か

ら募集し、そこにまちが形成されるようなものができればということと議題として取り上げていきたいと思っています

■再答弁の要約

(答弁者)

村田 企画振興課長

平成27年1月から任意の転入転出アンケートを実施しており、27年1月から28年12月までの集計で、転出者数が378人のうち60歳以上が114人、アンケートをいただいたのが29人でした。

複数回答としていますが、生活維持が困難と思われるという項目で、買い物などが日常生活で不便という回答が29人、老後に不安があるという回答が9人、福祉が充実していないという回答が4人、病院など保健医療体制が整っていないという回答が21人です。

平成29年7月～平成29年10月 本会議及び各委員会等の出席状況

(○は出席、×は欠席、△は遅刻・早退、―は該当なし)

会 議	高橋 茂夫	吉 英樹	千葉 光義	野田 重毅	船橋 敦子	中川 一	浦 梅吉	佐藤 頼幸	三谷百十樹	川村 裕司
総務経済常任委員会所管事務調査 (7/21)	―	○	―	○	―	○	○	―	×	○
民生文教常任委員会所管事務調査 (7/28)	○	―	○	―	○	○	―	○	―	―
第3回議員全員協議会 (8/28)	○	○	○	○	○	○	△	○	○	○
議会運営委員会 (9/1)	○	―	○	―	○	○	○	―	―	―
平成29年第3回定例会 (1日目9/5、2日目9/6)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
決算審査特別委員会 (1日目9/5、2日目9/6)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
第4回議員全員協議会 (9/26)	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○
議会運営委員会 (議会だより編集) (10/23)	○	―	○	―	×	―	○	―	―	―

## 議員行政視察

7月3日、積丹町の観光振興について研修、意見交換を行い、町営温泉「岬の湯しゃこたん」の視察を行いました。



岬の湯しゃこたん

### 【積丹町】

#### ■概要

総面積238.21km<sup>2</sup>約80%が林野面積で、地形は平野部が少なく、高さ100m余の急峻で複雑な海岸線が連続している。

平成27年の国勢調査では、人口2115人、世帯数は994世帯となっている。

産業は漁業・農業・観光業であり、漁業では、沿岸漁業が主体で、ほつけ、いか、えび、ウニ等を水揚げしているが、近年は沿岸資源増大のため、漁場造成の実施、増養殖事業、稚魚放流事業など育てる漁業の推進に取り組んでいる。

農業では、酪農・肉用牛経営を中心として、低農薬・低化学肥料のカボチャやジャガイモの契約栽培や、ハウス栽培のミニトマトなど、畑作・野菜の生産が行われている。

#### ■研修事項

積丹町の観光振興について昭和38年「ニセコ積丹小樽海岸国定公園」、昭和47年「海中公園」の指定（現在は「海域公園」を受け、札幌・小樽・余市・積丹間の国道整備促進に伴い「海岸景観の眺望」と「新鮮な海の食材」を資源とした道央圏の身近な景勝地として観光業を形成し、今日に至っている。

昭和60年代から観光客入込数は約70万人台で推移し、その後、平成7年「神威岬自然公園」が完成し、平成8年「積丹半島周遊国道229号」が全線開通となり、平成9年度には観光客が168万3千人を記録した。平成10年「水中展望船ニユーしゃこたん号」が就航し、平成14年「岬の湯しゃこたん」開設、「積丹岬」や「黄金岬」も随時整備され、観光客入込数は年間100万人を超えて推移し、平成22年度からは100万人を割ったものの、平成28年度は外国人観光客の効果もあり108万7千人となっている。

水中展望船の利用者は3万4千人で推移し、岬の湯しゃこたんの利用者は平成21年に10万人を超えていたが、平成22年からは8万人台で推移している。

観光の形態は、交通アクセスが改善され道央圏の身近な観光地となり、半島周遊国道整備による滞在型観光から日帰りの通過型観光へ変化した。

また、自然や味覚を求める観光から体験・教育観光へ転換し、近年は東南アジアなどからの外国人観光客も増加している。

観光資源では、北海道遺産に認定された神威岬や、日本の渚百選に選定された積丹岬・島武意海岸などがある。

今後は観光客や近隣自治体の状況等、環境の変化に対応した施策の実施や、学生や外部の力と連携し、SNSなどでの情報発信していくことが課題となっている。

○岬の湯しゃこたん  
名称・積丹町産業交流雇用対策推進施設

開設…平成14年1月1日  
形態…日帰り入浴施設（120名の団体休憩室、ホール、休憩室あり）  
特徴…高台に位置した露天風呂から眺める広大な日本海の絶景で、右に積丹岬、左に神威岬を望む。

泉質…ナトリウム塩化物・炭酸水素塩泉  
源泉温度…52.6℃  
湧出量…毎分204ℓ  
運営体制…施設長が商工観光課長、臨時職員15人

建設時の計画では、入館者を12万5千人、収入額を1億1779万4千円を採算ラインとして見込んでいた。

開館当初の平成14年度は18万3040人が入館し、1億8648万9千円の収入だったが、その後減少し、平成27年度は、8万5090人の入館で、収入額が8737万4千円となっている。

収入額の内訳は、入館料4809万1千円、軽食1853万5千円、売店1390万1千円、その他684万7千円となっている。

岬の湯しゃこたん

建設事業費

単位：千円

区分	総事業費	国・道補助金	地方債	一般財源
総事業費 (事業年度H9～H15)	961,798	198,470	705,700	57,628
うち本体工事費 (事業年度H12～H15)	720,785	80,500	621,900	18,385

施設の概要

①主体施設	鉄筋コンクリート造一部木造 1,837.46㎡ 【浴室】 高温湯、中温湯、泡風呂、サウナ、水風呂 露天風呂（大・小） 【施設】 売店、軽食コーナー、交流談話室、ギャラリー
②付帯施設	交流施設 (181.89㎡) 温泉水処理施設 (72.57㎡) 引湯施設 (16.82㎡) 温泉ボーリング (1,000m)
③外構等	駐車場 (6,698.7㎡・120台収容) 町道野塚温泉通り線 (延長572m、幅5.5m)

期間別では、入館者の8割が4月から10月に集中している。平成27年度特別会計決算の総事業費が1億1732万1千円で2939万6千円の赤字となっており（入湯税1205万8千円は一般会計で収入するため、収入に含まれていない）、平成28年度は、2700万円程度の赤字となっている。入館者増大対策として、冬期料金の設定、食堂メニュー・売店販売品目の見直し、イベント開催や使用料減免の日の設定などを行い、経費縮減・売上増大対策として、冬期間の定休日設定・営業時間の短縮、外部機関による省エネルギー診断、町外業者による利幅の多い商品への転換、冷凍シヨーケース増設による商品の増加を行った。

現状では、近隣市町村に公共温泉が多いことや、札幌市に民間のスーパ―銭湯が乱立したことにより、入館者が減少しており、赤字が概ね3千万円で推移していることや、臨時職員の確保が課題となっているが、町内雇用が15名、町内店舗商品等取り扱いが約2300万円、入湯税収入が約1206万円という効果もある。建物の償還（過疎債）は平成25年で終了したが、従業員の安定確保や高額になる施設修繕費など、より厳しい運営が予想されている。また、経年による大規模改修にかかる財源確保も課題になっており、他市町村では、公設日帰り温泉施設の8割以上が民間委託をしているため、今後の経営の抜本的な改革を検討している。今後は、他市町村の現状分析を行い、PR活動、情報発信、イベント開催、オリジナル商品開発、ポイント制導入、魅力ある食事の提供を行い、強化していくことが必要だと考えている。



# 行政視察報告

## ■行政視察を終えて

今回の行政視察では、漁業と観光業が主産業である積丹町の海岸景観の眺望と新鮮な海の食材を資源とした道央圏の身近な観光地としての取り組みや、露天風呂から積丹岬・神威岬を望む町営温泉「岬の湯しゃこたん」の運営状況について研修を行い、観光の現状と課題、対策や町営温泉の赤字の現状、町内への波及効果など今後の当町の課題である、しかべ間歇泉公園第2期周辺整備においても学ぶべき部分が多く、予定しております。

時間30分位の位置にあり、人口は平成29年5月で2171人(鹿部町4034人)、面積は238.21km<sup>2</sup>(鹿部町110.63km<sup>2</sup>)、観光客入込数は平成28年度で108万人(鹿部町45万人)です。

町営温泉「岬の湯しゃこたん」の入館者は、オープン時の平成14年度は18万3040人、平成27年度は8万5090人で推移している状況であり、年間3千万円程の赤字であるとのこと、従業員の確保にも大変苦労されているようです。

町民の健康増進、予防医療、コミュニケーションの場である多機能温浴施設が必要ではと思うところであります。

しかし、鹿部町に置き換えて考えた時、施設の健全な運営、将来の人口減、税の減収が予想され、投資に対して、適正な収益を上げ、採算が合うのか、町民皆様・町部局・議会が一丸となり議論を重ね、次世代に負の遺産を残さぬよう、調査・研究することが重要であると痛感しました。

この度、積丹町へ行政視察に行き、観光振興全般と町営温泉の運営状況について学んでまいりました。

観光振興については、黄金岬・積丹岬・神威岬の景観の良さがあり、また美国港から運行している水中展望船に乗船し、海から見た宝島は絶景の上、海の青さも素晴らしいものでした。

人口は、昭和35年の8070人がピークで、現在では2171人まで減少しており、イベントなどでは札幌近郊からの学生によるボランティアの方々にお願いすることもあるそうです。

平成14年にオープンした町営温泉は、総事業費9億6千万円であり、初年度は予想収入額より約6800万円増とのことでしたが、6年目辺りから徐々に減り、現在では入湯税収入1200万円ありますが、約3千万円の赤字ということ、今後の運営について検討中のようにです。

羊蹄山、オレンジ色やオーロラピンク色に見える海から登る朝日、駒ヶ岳に沈む夕日など、綺麗な景色をもっとアピールすべきと感じますし、町や町民にとって何がベストか、町民のご意見はもちろんのこと、町側との意見交換を十分に重ねた上で計画について検討しなければならぬと考えさせられました。

## ○浦梅吉議員

この度、積丹町を視察してまいりました。

積丹町は、海・山ともに自然がとて豊かで、素晴らしい観光地です。

平成10年には水中展望船ニューしゃこたん号が就航し、平成14年には岬の湯しゃこたんを開設、積丹岬や黄金岬も随時整備されております。魚介類も採れて、特にウニ漁が有名な所で、観光振興にも力を入れており、昨年の観光客数は108万7千人です。

温泉施設の岬の湯しゃこたんは、日本海の雄大な眺めと、たつぷりの湯量が自慢の温泉で、右に積丹岬、左に神威岬が一望できる絶好の場所です。泉質も良く、体がつるつるになる温泉で、神経痛・筋肉痛・慢性消化器病・冷え性・疲労回復・関節痛・慢性皮膚病等に効能があります。また、浴室は高温湯・中温湯・泡風呂・サウナ・水風呂・露天風呂(大・小)がありますが、日帰り温泉であり入館者が少なく、昨年は約3千万円の赤字となっております。

鹿部町でも温浴施設の計画を検討しておりますが、鹿部町の良さを出した施設にしなければならぬと思われました。

## 行政視察報告

### ○中川一議長

7月3日、昔はニシン漁、今は積丹ブルーで有名な積丹町への行政視察を行いました。

積丹町は、札幌市より2

積丹町は、札幌市より2

積丹町は、札幌市より2

積丹町は、札幌市より2



休憩室(岬の湯しゃこたん)

## ○吉英樹議員

この度の視察の目的地である、積丹町の「岬の湯しやこたん」を視察研修した感想や疑問に思ったことについて報告させていただき

ます。

この入浴施設は高台に位置して、大変立派な建物と設備とともに日本の眺望も素晴らしいものであるが、その営業実態は毎年3千万円もの赤字を出し続けている、積丹町にとって大変な重荷となっている現状を知ることとなるとは想像もしておりませんでした。

札幌市周辺に2百万人以上の後背人口を持つ積丹町でありながら、利用客数が伸び悩んでいるのは、札幌市近郊に数多くあるスーパー銭湯や定山溪を始めとする多くの温泉地との集客合戦が凄まじいものがあり、それが先に上げた赤字に繋がっているものと推察されます。

部町の「ひろめ荘」、旧榎法華村の「恵山荘」のこれまでの経緯、森町の「グリーンピア大沼」「ちゃっぷりん館」が当初莫大な建設費を投入して整備されたのに、も拘わらず、運営が上手く行かず民間等に格安で譲渡されようとしている話題を耳にすると、果たして鹿部町で計画されている入浴施設についても、本当に上手くやっていけるのか、積丹町とは違い函館市周辺の30万人程の後背人口と北海道新幹線開業による観光客の増加を加味してもその将来は危惧せざるを得ないと思います。

鹿部町に負の遺産を残す可能性を排除すべく熟考に熟考を重ね、議論を尽くして結論を出さねばならないと考えさせられた今回の視察研修であったと思います。

## ○船橋敦子議員

これまで日本各地で繰り返されてきた、官公庁・自治体等の運営する公共施設がことごとく破綻している中、鹿部町近郊でも旧南茅

積丹町では、観光資源に恵まれた町に温浴施設が一軒もないことで、積丹町産業交流雇用対策推進施設として町長の強い希望により建設され、この名称から建

設目的を伺うことができる。

施設は高台に位置し、露天風呂からは積丹ブルーの美しい海が広がり、右には積丹岬、左には神威岬を一望できる絶景地にあり、茜色に染まる夕暮れの光景は、言葉を失うほど美しいとのこと。特産品コーナーや軽食コーナーも併設されており、楽しい時を過ごせそうな雰囲気、また来たいと思わせる集客力を感じる。

また、高台にあることで災害対策にもなると考えられる。

近年は、公共温泉や民間のスーパー銭湯の乱立で、年間収支が赤字ではあるが、その額の4割の入湯税収入がある。また、日帰りの入湯税率が当町の3倍となっており、参考にすべき点だと感じた。

道路網の整備で、道央圏からの誘致活動や観光地と連携した招致活動、新鮮な海の幸を活かしたイベントの開催を工夫し、観光シーズンの延長を図るなど、官民一体となって観光客入込数増加への積極的な姿勢を伺うことができた。

最後に、「赤字であつても見方次第、考え方次第です、数字に表れない恩恵の方が大きい」と結ばれた言葉に心が和んだ。

鹿部町においても、温浴施設を計画していく上での様々な問題点に、今回の研修で参考になった点を活かしていきたいと決意を新たにす視察であった。

## ○高橋茂夫議員

積丹町の注目点

①計画時（H14）の予想から現在入込数、収入で約7割、年3千万円の赤字

②施設修繕に今まで8千万円の支出

③多くの課題を抱え、現在民営化を含め検討中

鹿部町の留意すべきこと

①町民福祉向上の視点（既設施設の実態等）

②観光事業振興の視点（既存事業者との共存共栄、繁栄）

③民間企業による建設・運営（町の財政状況を考慮）

多角的な観点から議論を深め、より良い方向性を見出すべきである。

近隣施設との差別化を図

り、感動体験ができ、全国から観光客が押し寄せる場所にするような知恵が出るかが勝負かな？駒ヶ岳と海の眺望だけでは観光客数には限界がある。鹿部の浜では獲れる魚介類を生かしたイタリアン料理（ブイヤベール等）で集客する等、鹿部町全体での取組が必要で、既存業者ともコラボができれば建設費も抑えられるのでは？

食の力は大きい。町民の将来につけをまわすことだけは絶対に避けなければならない。



積丹町役場での研修

# 行政視察及び研修会報告

## ○千葉光義議員

この度、積丹町を視察研修してまいりました。

町営の「岬の湯しゃこたん」では、建設時から6年ほどは計画通りの経営状況でありましたが、その後は赤字が続き、建設から15年経った現在では、約3千万円の赤字ということでした。

当町でも同様な計画を検討しておりますが、慎重な審議・協議をしなくてはならないと感じさせられました。

## ○三谷百十樹議員

積丹町では、先ず最初にアメリカから水中展望船に乗船し、約40分周遊しながら船底から海中を眺め、帰港する際にはカモメに餌やり体験をするというもので、とても楽しめるものでした。

この時に「家族を連れて来たい、子どもたちにも体験させたい」と感じ、また訪れたいと思える町こそが今、当町が目指すべき観光振興による町づくりではないかと思えました。当町を訪れてくれる方々に、町民みんなが笑顔であいさつし、

心から歓迎することが大切で、「リピート心をくすぐる」ような町を目指していかねばなりません。

次に、岬の湯しゃこたんを視察し、露天風呂から望む絶景を見て、これを当町にあてはめたら、どんな景色が広がるだろうと、想像をかきたてられました。売店では、8割方が地元の加工食品であふれ、安価なところが魅力と感じました。

しかしながら、この温浴施設を運営するに当たり、集客数の確保や莫大な維持・管理費の投入、そして数々の問題点があると説明を受けてまいりました。

この問題は、今まさに当町で計画中的である温浴施設に直結するものであり、大変参考になる内容でした。いずれにしても、観光で来てもらうためには、先ず「リピート心をくすぐる」施設にしなければならぬと考えております。また、自分自身も笑顔で迎えることができるよう心掛けたいと思えます。

## ■行政視察参加者

議長	中川 一
副議長	川村 裕司
議員	吉 英樹
議員	船橋 敦子
議員	浦 梅吉
議員	高橋 茂夫
議員	千葉 光義
議員	三谷百十樹
事務局長	児玉 貢
係長	吉田かおり
	以上10名

## 議員研修会

去る10月17日に平成29年度渡島管内市町議会議員研修会が北斗市で開催され、議員7名が出席しました。

研修では、北海道教育大学札幌校准教授 武田泉氏が「道南の交通体系とJR北海道問題」、時事通信社解説委員 小林伸年氏が「今、求められる政策と人口減少時代を乗り越える」と題して講演をいただき、管内の市町議会議員（函館市を除く）約140名が出席され、2人の講演に耳を傾けていました。

# 委員会の活動

有害鳥獣対策について調査しました。

## 総務経済常任委員会 所管事務調査

### ◇総務経済構成委員

委員長 吉 英樹  
副委員長 三谷百十樹  
委員 野田 重毅  
委員 浦 梅吉  
委員 川村 裕司

### ◇調査年月日

平成29年7月21日

### ◇調査方法

担当課より提出された関係資料に基づき説明を受けた。

### ◇調査結果

平成26年度に策定した鹿部町鳥獣被害防止計画に基づき、毎年の捕獲目標を定め、猟友会鹿部支会の有害鳥獣捕獲実施隊員に町から委託をして体制強化をはかり、被害防止に努めている。平成25年頃からいわゆる放牧馬の被害が確認されている。放牧馬は、函館市の畜産農家2名が函館市蛾眉野に放牧していたものが、旧南茅部から鹿部に移動し

自然繁殖をして本町の市街地に出没している。

対象鳥獣	捕獲計画数等		
	平成28年度（実績）	平成29年度（計画）	平成30年度（計画）
ヒグマ	2頭	5頭（7／1現在0頭）	5頭
エゾジカ	7頭	10頭（7／1現在10頭捕獲）	10頭

※対象外捕獲鳥獣：カラス639羽、ハト38羽

放牧馬については、家畜のため、行政が直接対策を講ずることが基本的にはできないことから、渡島総合振興局、函館市、警察署と連携しながら、所有者へ指導してきたが、改善されないため、今年は捕獲期限を設け、期限内に捕獲できない場合は、町が直接対処する旨所有者に強く指導したところ、確認されている放牧馬全体の7割以上に当たる11頭が捕獲されている。

エゾシカについては、7月時点で今年度計画数の10頭を捕獲しており、目撃回数も多いため、分布地等の現状を把握し、計画を見直す検討をする必要性を感じた。

放牧馬については、平成29年の7月現在で物損2件、車両事故1件、畑被害1件、糞害と様々な被害が発生しており、小学校や幼稚園付近に出没しているということから、児童や園児などに直接被害を及ぼす恐れもあり、引き続き馬主や関係機関と連携して対応することを望むものである。

一般廃棄物最終処分場、カラス檻、コミュニティ・プールの視察を行いました。

## 民生文教常任委員会 所管事務調査

### ◇民生文教構成委員

委員長 船橋 敦子  
副委員長 高橋 茂夫  
委員 佐藤 頼幸  
委員 千葉 光義  
委員 中川 一

### ◇調査年月日

平成29年7月28日

### ◇調査方法

担当課より提出された関係資料に基づき説明を受け、現地調査を実施した。

### ◇調査結果

#### ■鹿部町一般廃棄物最終処分場の視察について

埋立地施設は、一定量埋められたゴミに50cm程度覆土する工程を繰り返し行う準好気性サンドイッチ方式で、排水管と埋立地内に設けたガス抜き管を通じて空気を入れることでゴミを分解させる仕組みになっており、2期目処理施設は平成26年4月から運用開始して

いる。

表面積の内、1期目の埋め立て地面積が3700㎡、2期目が4306㎡となっており、埋立計画期間は、1期目が10年間、2期目は15年を予定し、埋立対象物は、焼却残渣やリサイクル残渣等となっている。

総事業費は平成23年度から25年度までで、4億2546万円となっており、交付金対象事業費の3分の1である1億1257万7千円は循環型社会形成推進交付金を活用している。

交付対象施設は、浸出水調整池、埋立地、浸出水処理施設の基礎周り、浸出水処理室及び薬品置場となっている。

過去5年間におけるごみの埋立量の平均は、28万2318kgとなっており、これを基に2期目となる埋立地の計画期間を算出すると、15年と予定している期間から約5年余りは延命できる試算結果が出ていることから、今後、粗大ごみの有料化の検討等も含め、ごみの減量化に努め、更に埋立地の延命化につなげることを

望むものである。



調査風景

#### ■カラス檻の視察について

カラスの捕獲数は平成25年度で137羽、平成26年度145羽、平成27年度38羽、平成28年度255羽となっており、合計875羽が捕獲されている。引き続き適正な管理をしていた。きたい。

#### ■鹿部コミュニティ・プールの視察について

平成2年8月9日供用開始の温泉利用の熱交換方式による温水プールは、鉄骨・鉄筋コンクリート造一部2階建、延床面積は、1397.87㎡（1階1300.85㎡、2階97.02㎡）、総事業費は、3億3637万4088円で、その内道費（市町村振興補助）は5千万円、起債（地域総合整備事業債）2億3190万円、町費5447万4千円となっている。

開館時間は、月曜日から金曜日の午後1時から午後8時まで、土曜日・日曜日・祝日の午前10時から午後5時までとなっているが、利用者等の要望により夏休み期間中（7/27～8/20）は午前10時から午後8時までとしている。

利用者数については減少傾向にあることから、過去に開催していたアクアビクスやウォーキング等の事業の取り組みについても見直し、利用者の増加及び健康増進に繋がる活用を検討することを望むものである。

# 議会の行事

## 8月

- 5～6日 北海道の交通体系を考えるシンポジウム (議長)
- 14日 鹿部町成人式 (議長及び議員)
- 17日 第1回次世代エネルギーに関する研究会 (議長及び議員)
- 20日 きじひき高原まつり2017 (議長)
- 21～22日 北海道議長会議会広報研修会 (関係議員)
- 23日 大和ハウス工業(株)との地域づくり・まちづくり推進に関する協定締結式 (議長)  
鹿部町まち・ひと・しごと創生総合戦略有識者会議 (関係議員)
- 28日 第3回議員全員協議会 (全議員)
- 29～30日 渡島・檜山町村議会議長連絡会議 (議長)

## 9月

- 1日 議会運営委員会 (全委員)
- 4日 第2回南渡島消防事務組合議会定例会 (関係議員)
- 5日 第3回定例会(1日目) (全議員)  
決算審査特別委員会(1日目) (全委員)
- 6日 決算審査特別委員会(2日目) (全委員)  
第3回定例会(2日目) (全議員)
- 10日 しかべ幼稚園運動会(議長及び議員)

- 14日 鹿部町敬老会 (議長及び議員)
- 26日 第4回議員全員協議会 (全議員)  
第31回交通安全キャラバン (議長)  
漁港利用推進協議会 (関係議員)
- 27日 第3回社会福祉法人渡島福祉会理事会 (議長)  
大漁祈願祭 (議長)
- 30日 鹿部中学校海嶺祭 (議長及び議員)

## 10月

- 1日 前田一男連合後援会事務所開き (議長)
- 5日 元気もりもり運動会(議長及び議員)
- 6日 第41回渡島公立幼稚園・こども園教育研究大会しかべ大会 (議長)
- 7日 おおさか誠二勝利総決起集会(議長)
- 10日 前田一男連合後援会出陣式 (議長)
- 12日 道の駅しかべ間歇泉公園運営協議会 (関係議員)
- 16日 渡島廃棄物処理広域連合議会運営委員会 (関係議員)
- 17日 渡島管内市町議会議員研修会 (全議員)
- 23日 議会運営委員会 (全委員)
- 25日 第2回渡島廃棄物処理広域連合全員協議会・定例会 (関係議員)
- 27日 鹿部小学校学芸会 (議長及び議員)
- 30日 民生文教常任委員会所管事務調査 (全委員)
- 31～11月1日 第68回全国漁港漁場大会 (議長)